

安心して  
治療を受けていただくために  
～がん患者さんにご家族へ～



市立岸和田市民病院

## 患者さん、ご家族の皆さんへ

当院は、泉州地域のがん診療の中心となる施設として厚生労働省から認定された「地域がん診療連携拠点病院」です。国からの認定を受けるためには、適切で専門的な治療の提供や、地域の病院との連携協力体制が整っていること、患者さんやご家族の相談や情報提供にに応じていること等が求められます。

この冊子は、がんの患者さんやご家族の治療や療養生活がより良いものとなることを願い、様々な職種のスタッフからのメッセージや、当院でのサポートについてまとめています。  
少しでも皆さんの手助けになれば幸いです。ぜひご利用ください。

市立岸和田市民病院  
院長 横見瀬 裕保  
がん診療推進委員会



# 目次

## がんに関する相談・サポート

がん相談	p. 1
がんに関する情報	p. 5
セカンドオピニオン	p. 7
患者会や講演会など	p. 8

## がんの診断・治療

がんの診断	p. 11
手術・内視鏡	p. 13
抗がん薬治療	p. 15
放射線治療	p. 18
緩和ケア	p. 21

## 地域の医療機関との連携

地域の医療機関との連携	p. 23
お問い合わせ先など	p. 24



# がんに関する相談・サポート

## がん相談

がんに関する様々なご相談にお答えしています。

ご本人、ご家族はもちろん、当院に受診されていない方々もご相談頂けます。  
匿名での相談も可能です。

お困りごとがあるときだけでなく、気持ちや考えが整理できていないときや、  
誰に、何を相談したらいいのかわからないようなときでも、いつでもご相談く  
ださい。一緒に考えさせていただきます。

相談内容が、ご本人の了解なく、担当医をはじめ、他の方に伝わることはありませんので、どうぞご安心ください。



### がん相談

相談時間：平日 午前9時～午後5時

電話番号：072-445-1000

FAX：072-441-8811

メール：当院のホームページの「がん相談」を検索ください。

「メールでのご相談専用フォーム」より、ご相談いただけます。

詳しい内容を記載した冊子やパンフレット類は、がん相談窓口や地域医療センター、各外来受付にご用意しています。

こんなときには、外来1階の【がん相談支援センター】へお越しください。  
(相談は無料です。お車で来られた場合の駐車料金をご負担となります。)

### ★病気のこと、治療などに関する相談全般

- がんに関する情報
- 抗がん剤治療・放射線治療・など治療に関する相談全般  
(副作用など治療による影響、治療中や治療後の生活の工夫、皮膚トラブルへのケアなど)
- 手術に関する相談全般  
(術後の生活、人工肛門・人工膀胱、失禁、胃瘻や腸瘻のケアなど)
- 緩和ケアに関する相談全般  
(苦痛症状への対応、緩和ケア外来や緩和ケア病棟に関する情報など)
- 治療や療養先を決める際の相談
- セカンドオピニオンについて知りたい時、どこを受診すればよいのかわからない時、セカンドオピニオンを希望したいが言い出しにくい時
- 医師からの説明、様々な情報や気持ちが整理できず、どうすればいいのかわからない時など

### ★日常の療養生活に関する相談、治療費などのお金に関する相談

- 食事や排泄など在宅での療養生活全般や介護
- 医療費のお支払いに関する相談
- 利用できる制度やサービスなど

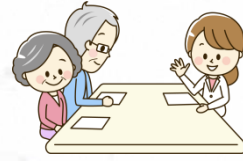
### ★治療と仕事の両立、働き方や休職、仕事復帰などの相談

### ★今後の復学・就職・子どもをもつことなど、AYA世代(15~39歳)の患者さんの困りごとの相談

### ★気持ちのつらさ

### ★周囲(家族・知人・医療者など)とのコミュニケーション(接し方)の悩み

## がん相談員から皆さんへ



がん相談支援センターでは皆さんのお話を伺い、お気持ちに寄り添いながら一緒に考え、お困りごとの解決のお手伝いをさせていただきます。また、必要な場合は専門のスタッフや、機関をご紹介いたします。どうぞ安心してご相談ください。



2019年からは、国立がん研究センターから“認定がん相談支援センター”に指定されており、さらに質の高い相談支援を行えるよう日々取り組んでいます。



## がん看護専門看護師から皆さんへ



患者さん・ご家族が抱えておられる病気による様々な悩み（症状や体調に関すること、気持ちに関すること、人間関係に関すること、など）について、お話をうかがいながら一緒に考えさせて頂いたり、ご希望に応じて、対処方法の工夫についてのアドバイスや、サポートのご提案などを行っています。

すぐに解決することは難しいお悩みも多いかもしれませんが、病気によるお困りごとやつらさが少しでも和らぐようにお手伝いさせていただけたらと思っています。

(がん看護外来：完全予約制ですので外来Fブロックにて事前予約が必要です)



## 皮膚・排泄ケア認定看護師から皆さんへ

ストーマ（人工肛門・人工膀胱）を保有されている方が、より快適に、安心して日常生活を送ることができるよう、専門的な相談に応じています。お1人30分以上の時間をかけて、ゆっくりお話をうかがいながら、皮膚トラブルや合併症の対処方法、ストーマケアや日常社会生活でお困りのことなど、様々な問題を一緒に解決できるよう支援をしていますので、お困りの際は、ぜひご相談ください。

（ストーマ外来：完全予約制ですので外来Aブロックにて事前予約が必要です）

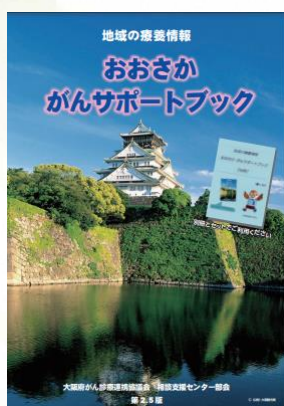
# がんに関する情報

病気や治療、療養生活など、がんとの付き合い方に関する情報として、こちらもご利用ください。

## 地域（大阪府）の療養情報

- ・がんの診断から治療までの流れ、医療費や利用できる制度、仕事のこと、自宅療養のサポート、若年のがん患者さんへの支援などに関する情報が知りたい時  
おおさか がんサポートブック

・・・<https://osaka-gan-joho.net/link/>



★おおさかがんサポートブック ★おおさかがんサポートブック（別冊）

※冊子をご希望の方は、【がん相談支援センター】へお越しください。

## 薬剤に関する情報

- ・PMDA 独立行政法人医薬品医療機器総合機構  
・・・『一般向け』ページ <https://www.pmda.go.jp/pnavi-01.html>





## がん全般（治療、療養生活）に関する情報

- 各がんについての情報、治療や療養生活のこと、がん統計に関する情報などが知りたい時

国立がん研究センター

- • • <https://www.ncc.go.jp/jp/index.html>



がん対策情報センター がん情報サービス

- • • <http://ganjoho.jp/public/index.html>



患者必携（完成版）

- • • [https://ganjoho.jp/public/qa\\_links/book/public/index.html](https://ganjoho.jp/public/qa_links/book/public/index.html)



※患者必携は、患者さんのしおり（『がんになったら手にとるガイド』概要版）の冊子をご希望の方は、【がん相談支援センター】へお越しください。

がん情報サイト

- • • <http://cancerinfo.tri-kobe.org/>



がんとわかったときからはじまる緩和ケア

- • • <http://www.kanwacare.net/formedical/materials/leaflet.php>



- 公開講座や患者さん・ご家族の支援に関するプログラムのご案内、患者さん向け手引きなどについて知りたい時

日本癌治療学会HP 「がん治療の案内板」

- • • <http://www.jsco.or.jp/guide/>



# セカンドオピニオン

セカンドオピニオンとは、治療を必要とする病気に対する診断や治療方針について、他の医療機関の医師の意見（第二の意見）を求めるものです。

セカンドオピニオンは患者の権利として認められておりますので、ご希望の場合は主治医にお申し出下さい。

医師には相談しにくいと感じられる場合には看護師または、外来1階の「がん相談支援センター」にお声かけください。

患者さまがセカンドオピニオンを求めることにより、不利益を被ることは一切ありません。



# 患者会

患者会とは同じ病気や障害、症状などの共通する体験を持つ患者さんなどが集まり、情報交換や交流する会のことです。

現在当院では、乳がん患者会「カーネーション」が活動しています。

## 【カーネーション】

2011年に患者さんの呼びかけによって組織されました。

これから乳がん治療を始める方、治療中や治療後の方、一度会合を覗いてみませんか？お気軽にご参加ください。

定期会合開催日時：奇数月（1・3・5・7・9・11月）

第3木曜日 14：00～16：00

お問い合わせ先：がん相談支援センター

問合時間 午前9時～午後5時

電話番号 072-445-1000

「患者会（カーネーション）」とお申し出下さい。

ホームページ：

[https://www.kishiwada-hospital.com/patient/check\\_seminor/carnation/](https://www.kishiwada-hospital.com/patient/check_seminor/carnation/)



# がん患者サロン

患者会とは異なり、がんの種類や治療内容を問わずに、がんを経験した方々が語り合ったり、お話を聞いたりしながらほっと一息くつろげる場所としてオープンしています。

ご本人・ご家族やどなたでも参加でき、途中の入退室も自由です。

## *Luana*<sub>(ルアナ)</sub>

開催日時：奇数月の第4金曜日 13:00~14:30

開催場所：外来2階Fブロック研修室

ホームページ：

[https://www.kishiwada-hospital.com/patient/cancer/cancer\\_support/#luana](https://www.kishiwada-hospital.com/patient/cancer/cancer_support/#luana)



# 各種講演会

当院ではがんに関する講演会を開催しております。詳しい内容は院内ポスターやホームページ等でご案内させていただきます。お気軽にご参加ください。

ホームページ：

<https://www.kishiwada-hospital.com/medical/kenshukouen/>





# がんの診断・治療

## がんの診断

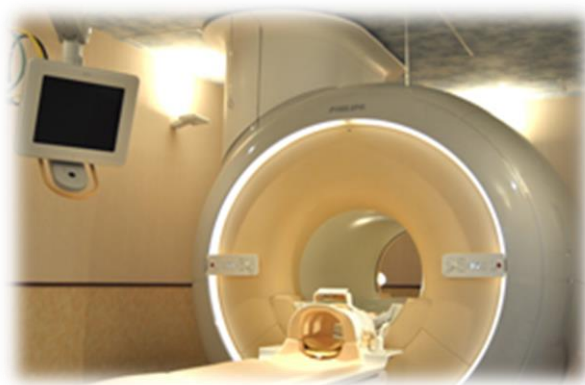
患者さん、ご家族は多くの不安をもたれて当院を受診されると思います。不安のもととなる病気がどのようなもので、どのように広がっているか、つまり、相手の様子が分かって初めて治療やこれからの過ごし方の相談が始まります。画像診断と病理診断は、がん診療を支える大切な両輪です、当院では皆さんに安心して検査を受けて頂けるように、それぞれの分野の専門医が常勤し、最新機器も備わっています。

## 放射線科部長から皆さんへ



近年の科学技術の進歩によって、画像診断は飛躍的な進歩をとげ、先進医療に欠かせない手段となってきました。がん診療においても、早期発見・病期診断や治療後のフォローアップなどに広く用いられています。市民病院には、マルチスライスCT・3テスラMRI・PET-CTなど、最先端の画像診断装置が導入されています。

これらの画像は、放射線科専門医がすべて読影し、診断レポートを作成します。画像診断は、当院の質の高いがん診療に大いに貢献しています。



## 病理診断科部長から皆さんへ



現時点において、ほとんどの病理医は患者さんと実際に会うことはありません。しかし、当院のほぼすべてのがんの診断に、病理医が関わっています。

病理医は、病気の一部を顕微鏡で観察し、主治医から提供された情報と合わせて、病理診断を行います。病理医の仕事は、手術のような重大な治療をするか否かを判断する重要な医学的情報を主治医に提供するだけではありません。手術中に病変の一部を顕微鏡で観察し、切除する範囲を決定するための医学的情報を提供することがあります。手術後には、化学療法や放射線治療などの追加治療をすべきか否かの判断に必要な医学的情報を提供します。

このように、顕微鏡による観察に基づいた医学的情報を主治医に提供し、患者さんの診療に貢献しています。





## 手術・内視鏡による治療

日本人に多いいわゆる5大がん（肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、肝臓がん）に対する手術治療を行える体制が整っています。さらに、脳腫瘍、口の中のがん（歯肉がん、舌がんなど）、顔や首のがん（甲状腺がん、咽頭がんなど）、泌尿器のがん（膀胱がん、前立腺がんなど）、婦人科のがん（子宮がん、卵巣がんなど）、皮膚のがんなど、全身各部位のがんの手術治療を行える、泉州地域では数少ない病院のひとつです。







## 外科部長から皆さんへ



がんの種類にもよりますが、手術による治療は、がんの治療のキーとなっていることを肝に銘じ、外科医は日々働いています。手術は、がんの根治（“がんを治す”）のための有力な治療手段ですが、それだけではなく、がんの症状緩和（“がんのつらさをとる”）のためにも有効な場合があります。がん患者さんのそれぞれの状況に応じて、外科医としてお役にたてることは何かという視点を常に忘れないように心がけています。



## 消化器内科部長から皆さんへ



食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん等、皆さんが一番に望まれるのは、できればおなかを開けないでがんを治せたらな、という事だと思います。それがまた私たち消化器内科医が目指しているところです。そのためには、早期に病気を発見することが大切です。消化器内科ではさまざまな検査を駆使して、病気の早期発見に努めています。それによりがんを内視鏡で治療したり、電気で焼いたりして、おなかを開けずに治療しています。また治療後も24時間、365日体制で消化器専門医が待機していますので、安心して検査、治療をおまかせいただけると思います。





## 抗がん薬による治療

薬剤（抗がん薬）を用いて、がん細胞の増殖を抑え、がん細胞を殺傷することによって、がんを治療しようとする方法です。手術や放射線の治療が、からだのある部位に限られた固形がんを対象にした局所療法であるのに対して、抗がん薬による治療は、からだ全体のがんを対象に治療する全身療法で、注射、内服、点滴などの方法で行われます。

抗がん薬は、より速く分裂増殖する細胞を死滅させる働きがあり、がん細胞を選択的に死滅させることを目的に投与されます。しかし、皮膚や骨髄、胃腸粘膜なども細胞分裂が盛んなため、抗がん薬が取り込まれてしまい、副作用が出やすくなります。

最近では、抗がん薬の副作用を管理する方法（支持療法）が発達し、外来で治療をすることも多くなりました。





## 腫瘍内科部長から皆さんへ



抗がん薬は「怖い」とイメージされていませんか？しかし、抗がん薬や副作用予防薬の進歩により、通常の日常生活を送りながら、上手に治療を受けることが可能となっています。「友人に、『そんなに元気なのに本当に病気があるの？』と言われました」というご意見も頂戴します。“上手に”治療を受けるには、患者さんにも病気や治療について知っていただくことが大切です。

“上手に”がんと付き合えるように一緒に頑張りましょう。



## がん薬物療法認定薬剤師から皆さんへ



薬剤部では皆さんへ安全で安心ながん治療の提供を心がけています。抗がん薬レジメンの作成・管理（投与量・休薬期間・制吐剤等の確認）、抗がん薬の無菌調剤を通じて、抗がん薬による治療を安全に行えるようサポートしています。また病棟での薬の管理や情報提供を行ったり、患者さんの状態に合わせて体への負担が少ない薬剤を選択できるよう医師や看護師と相談するなどチームの一員として、皆さんに適切な薬物治療を安心して受けていただけるよう努めています。



## がん化学療法看護認定看護師から皆さんへ

当院では、がん薬物療法の治療内容に応じ、外来または病棟で治療を行い、患者さまが抱える不安や悩みなどを少しでも解消できるように医師・薬剤師・看護師・医療相談員などと連携しています。がん薬物療法は、治療期間に関係なく、患者さまの日常生活や仕事、経済的な影響がocこりうる場合があります。治療に伴う副作用、今後の治療の方向性、療養生活に関連した迷いや課題などを患者さま・ご家族さまと共に取り組み、支援できるよう関わらせていただきます。

# 放射線による治療

放射線治療は、手術や薬物療法とならんで、がん治療三本柱の一つです。放射線治療の特徴は、局所療法であること、臓器の機能や形態が温存できること、概して体の負担が軽いことです。放射線治療のみで行う場合は、ご家族と過ごしながらか、あるいは仕事を続けながらか、通院で治療できます。また、手術や抗がん薬と組み合わせて、お互いの長所を活かしながらか治療することもあります。全身に広がったがんでは根治は期待できませんが、局所的な痛みなどの症状をやわらげるのに有用です。一昔前と比べて、病巣をより正確に照射する技術と、正常な臓器の被ばく量を抑えつつ病巣の形状に合わせて十分量の放射線を照射する技術が飛躍的に向上しました。例えるなら“竹槍を遠くから投げて狙う”程度でしかなかったものが“ミサイルで目標を確実に狙い撃ちできる”ようになったといえるでしょうか。

当院では外部照射装置（リニアック）を用いて、画像誘導放射線治療や定位放射線治療、強度変調放射線治療など高精度照射法を取り入れ、体に優しい、安全かつ確実な治療を実施しています。





## 放射線治療科部長から皆さんへ



放射線治療科にこられる患者さんの多くは、病気のことやこれから受ける治療のこと、治療後の生活など不安でいっぱいです。そのうえ、放射線は目に見えず、照射されている間何も感じないので、治療の実感がわきにくい面もあります。そこで放射線治療医は、患者さんが納得し、安心して治療を受けていただけるよう、分かりやすく説明することを心がけています。また、看護師や診療放射線技師も日々の治療の手助けをし、きめ細やかに対応いたします。



## がん放射線療法看護認定看護師から皆さんへ



放射線治療はがん治療の三本柱の一つではあるものの、患者さんにとっては分からないことも多く不安が大きいと思います。安心して治療を受け、生活が送れるよう治療の決定から終了後まで、患者さんやご家族の支援をさせていただきます。つらい症状に対しては医師や薬剤師、栄養士などとも連携し、症状が緩和されるように努めています。

生活の質を保ちつつ、予定通り治療が終えられることを目指し、治療のサポートを行っています。最後まで心身のストレスが最小限に治療を乗り切ることを目標に、治療やそれ以外の事でもお困りごとには対応させて頂きたいと思っています。気になることがあれば何でも相談してください。

## 乳腺外科部長から皆さんへ



乳がんは日本人女性が最もかかりやすいがんであり、一生涯のうち11人に1人が乳がんと診断されます。乳腺外科ではおもに乳がんの診断と治療（手術と薬物療法）を行っています。診断ではマンモグラフィ検査や超音波検査で病変を発見し、そこに針を刺して顕微鏡検査でがんと確定します。この際、がんのタイプ分類（ホルモン療法が有効なタイプ、抗HER2療法が有効なタイプ、ホルモン療法・抗HER2療法ともに無効なタイプなど）を行い、それぞれの特徴に応じて治療方針を組み立てます。一例として、抗HER2療法有効タイプの場合はまず化学療法と抗HER2療法を先行して実施し、その後に手術、必要に応じて放射線療法やホルモン療法と進んでいきます。手術では、以前は乳房温存と乳房切除の選択しかありませんでしたが、今では乳房切除と乳房再建手術を同時に行うことも可能になりました。このように乳がん診療では多岐にわたる専門性が求められ、乳腺外科医単独では限界があります。当院では看護師、放射線診断医・治療医、放射線技師、病理医、臨床検査技師、形成外科医など多職種と連携し、さらに腫瘍内科医・婦人科医・緩和ケア内科医などからアドバイスを受け、質の高い医療の提供に努めております。



# 緩和ケア

緩和ケアとは、「重い病を抱える患者さんやそのご家族一人一人の身体や心などの様々なつらさを和らげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケア」であり、手術や抗がん薬による治療が困難になった時期からだけでなく、がんと診断された時から治療中、治療終了後、終末期の様々なつらさや悩みを抱えられる患者さんにご家族を支える取り組みです。

当院では、がんの診療に携わる医師のほぼ全てが緩和ケアに関する研修会を修了しています。（修了者の一覧を院内の掲示板【がん関連】、ホームページにて掲載）

入院中も外来でも、各科の主治医と緩和ケア内科の医師や緩和ケアチームが連携して、診断後から治療の状況に関わらず、より苦痛が少なく快適に過ごしていただけることを目指し、“緩和ケア”に努めています。

当院の緩和ケアは、主治医による診療以外にも、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟、緩和ケア外来で受けていただくことができます。医師・看護師・薬剤師・ケースワーカー・栄養士・心理士・理学療法士等、患者さんにとって必要なスタッフがチームとなって、主治医と協力して患者さんにご家族をサポートさせていただきます。また、地域の医療機関とも連携・協力しあって、入院でも、自宅でも、患者さんの考え方や生活を大切に考え、支えられるよう、相談しながら医療・ケアを行っています。

通院中や入院中に緩和ケアを希望される場合には、医師、看護師など医療スタッフにお声かけください。





## 緩和ケア内科部長から皆さんへ



がんは診断されてから、長く付き合うことになる病気です。その際に身体や心のつらさ、仕事や家庭の問題などの波が幾度となく寄せてきます。緩和ケアでは患者さんや家族がこれら波をうまく乗り切り、生活への支障を少なくできるようお手伝いをします。医師のみならず、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、理学・作業療法士、心理士、管理栄養士、がん相談員など各分野のスタッフが協力いたします。



## 緩和薬物療法認定薬剤師から皆さんへ



痛みなどの症状や気持ちのつらさなど様々な苦痛を抱えながら過ごしていると、さらにしんどさが増してしまうこともあります。副作用が心配で・・・薬が増えて大丈夫かな？など、薬に対する抵抗感や不安をお持ちの方もおられるかと思いますが、以前に比べて薬の選択肢も広がり、症状や病状に応じて個別に選択できるようになってきています。患者さんに安心して薬を服用していただき、少しでもつらさを和らげることができるよう、医師や看護師と協力してサポートしていきたいと思っております。

# 地域の医療機関との連携

病院での医療・看護を、切れ目なく次の療養先へ安心・安全に移行していくために、看護師と医療ソーシャルワーカーによるチームで活動しています。それぞれの患者さんおよびご家族の意向に沿った次の療養先の選択、必要に応じ在宅医・訪問看護ステーションや福祉サービス等の確保をし、退院までにカンファレンスを行うなど、入院中のケアがスムーズに継続できるよう病棟看護師と協力して様々な調整を行っていますので、いつでもご相談ください。

緩和ケアに関する地域のサポート情報（泉州緩和ケアMAP）：

<http://www.kishiwada-hospital.com/pcrf/index.php>



## おわりに

この冊子は、市立岸和田市民病院のがん診療に携わる様々な職種のスタッフが、がんの患者さんご家族に、“少しでもつらさや負担が少なく過ごしていただきたい”、“安心して治療を受けつつ毎日を過ごしていただきたい”という願いをこめて作りました。

私たち医療スタッフは、いろいろなかたちで力を合わせて、皆様のお力になれるように努めたいと思っています。

つらい時や困った時には、どうぞ思い出して、声をかけてください。

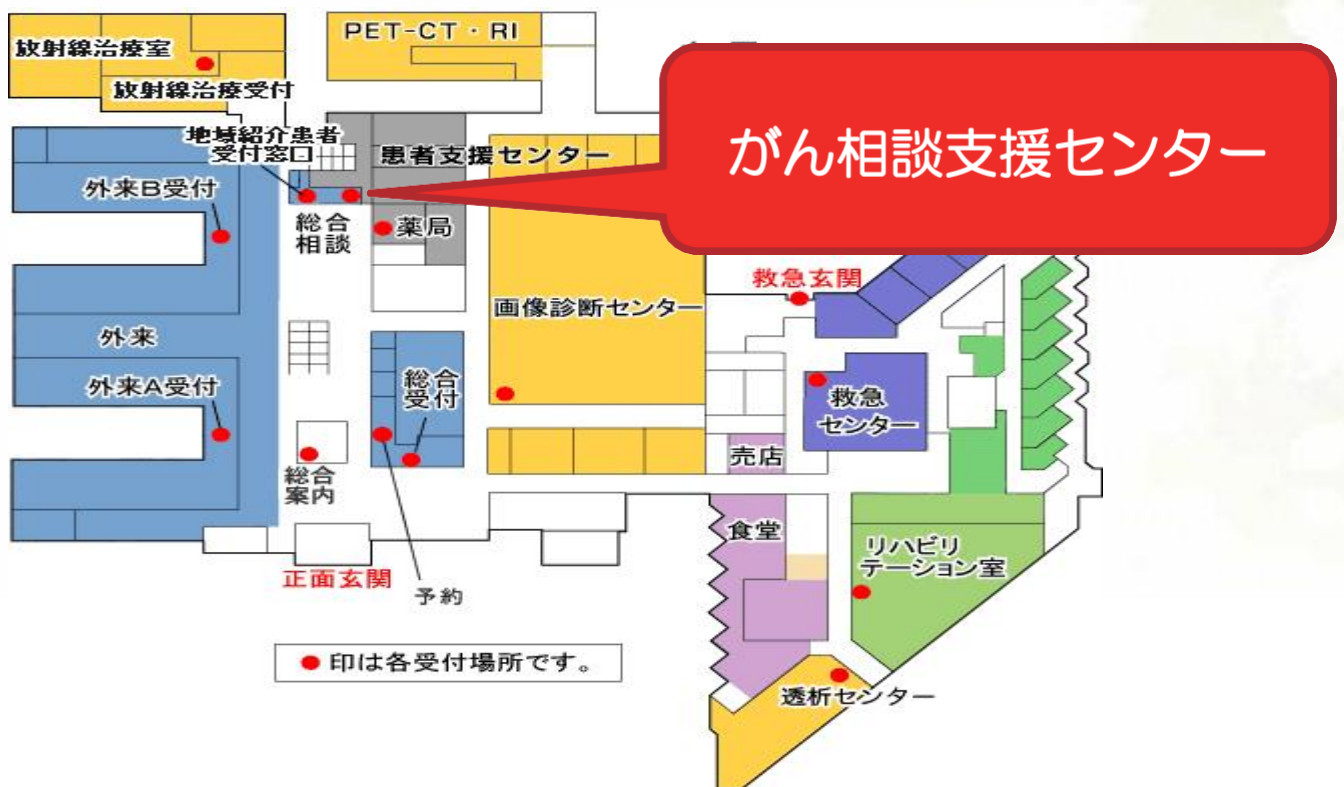


## この冊子に関するお問い合わせ先

市立岸和田市民病院 がん相談支援センター

住所：大阪府岸和田市額原町1001番地

電話：072-445-1000（代）



気持ちが  
つらいねん

緩和ケア  
ってなに？

仕事は続けて  
いけるかな？

病気や治療  
について  
もっと知りたい

これからも  
家で暮らして  
いけるかな？

からだがしんどいねん  
副作用がつらいねん

# がん相談支援センターに

## 一度相談してみよう。

費用  
無料

からだ・心・生活などのつらさ・悩みを軽くして、  
より豊かな人生を送るお手伝いをします。

家族の悩みも  
相談したいな

お金は  
大丈夫かな？

先生に  
聞きたいことが  
聞かれへん

専門職と協力します



- ご相談者の了解なく、担当医をはじめとする関係者にご相談内容を伝えることはありません。
- かかりつけの患者さんでなくても相談できます。● 患者さんやご家族のほか、どなたでも利用できます。

市立岸和田市民病院 がん相談支援センター(1階)

相談時間 平日 9:00~17:00

☎ 072-445-1000(代表)

メール info@kishiwada-hospital.com

(※「がん相談」とお伝え下さい)